

イザヤ書 8章 16-22節 主に望みを置き、主を待ち望む

今日はアドベント、待降節、の最初の日曜日です。希望という言葉と概念に焦点を当てる日曜日です。もちろん、これはイエス・キリストによってもたらされる希望です。アメリカ南部のバプテスト教会で育った私たちは、アドベントを祝いませんでした。クリスマス・イブとクリスマスはもちろん祝いましたし、クリスマスまでの間、教会でクリスマスキャロルを歌いましたが、アドベントについて話したり、記念したりすることはありませんでした。アドベントは、ローマ・カトリックか、よりリベラルなプロテスタント教会が行うもので、バプテストは行いませんでした。海軍のチャプレンとなり、さまざまな宗派のアドベントを重要な意味を持つ季節として歩んできたクリスチャンを含む環境でミニストリーを行う必要が出てきたため、私はアドベントの伝統について学びました。アドベントについての理解を深める中で私が学んだことは、アドベントとは毎週異なるキャンドルを灯すだけのものではないということでした。アドベントは、イエス・キリストの降臨、そして私たちにとってより重要な再臨に焦点を当てるための季節なのです。私たちが待ち望む時代に生きていることを思い起こさせる季節なのです。天地創造の時代からイエスがお生まれになるまでの人々は、メシアの到来、すなわち救い主の降臨を待ち望んでいました。アドベントのとき、私たちは霊的にその時代に戻りますが、最初の降臨ではなく、イエス・キリストの再臨を待ち望んでいるのです。イエスの時代の人々がそうであったように、今の時代でもほとんどの人々は、メシアの再臨を待ち望んではいません。しかし、イエスの信者であると主張する私たちは、救い主の再臨を期待して見守るべきです。アドベントは、私たちが特にその待望と主の到来を期待することに集中する時間なのです。

しかし、誰かを待つとき、或いは配偶者や子供たちを待つとき、ただ時間を無駄にしているように思えることがありますか。イエスの再臨を待つ場合は、そのようなことはありません。私たちはこの期間、イエスのために生きているのであり、イエスは私たちの人生に目的と方向性を与えてくださいます。そうでなければ、私たち自身の罪に満ちた限られた人間の欲望と理解から来ます。ですから、クリスマスまでのアドベントの4週間、私たちは、イエスが私たちに約束してくださった人生の味わいをすでに経験することはできても、まだそれを完全に体験することはできないこの期間に生きる私たちに、イエスが私たちのためにしてくださること、そして私たちに与えてくださることに焦点を当てます。だから、私たちは待つのです。そして今日、私たちが希望を持って待ち望んでいることを知ってほしいのです。これから4週間、の聖書箇所はすべてイザヤ書からです。今日は、イザヤ書 8章 16-22節を見てみましょう。

まず、16-17節を読みましょう。

このイザヤ書 8章では、預言者イザヤはまず、自分の息子と思われる人物の誕生を語り、その名前マヘル・シャルル・ハシュ・バズは、北イスラエル王国ユダがアッシリアに滅ぼされることを預言しています。つまり、あまり良いニュースではないのです。そして、私たちの特別な箇所は12節から始まり、イザヤと彼のメッセージを信じる人々が他の人々が信じている陰謀説や邪悪な同盟を信じることなく、神を信頼し続けるよう彼らを強め、警告する神の言葉から始まります。16節を読むと、イザヤは自分の教えを受け入れる弟子たちに、イザヤが伝えた神の言葉に対する決意と信頼を強めるように、あるいは「**束ねよ・・封印せよ**」と語っています。歴史家たちは、イザヤが弟子たちに特別な教えを与え、神の御言葉にしっかりと根付かせることに集中するために、公の宣教から手を引いた時期だと考えています。このことは、この後の節を見る上で重要です。

彼は続けて、主を待ち望む時期に入りつつあると言います。イスラエルに、そしてやがてはユダにも神の裁きが下ることを考えると、神は背を向け、民から「**御顔を隠して**」おられるように思われます。王であり詩篇を書いたダビデは、しばしばこのように感じ、それを詩的な言葉にしました。

詩篇 13篇 1節 主よいつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。そして、詩篇 88篇 14節 主よなぜあなたは私のたましいを退け私に御顔を隠されるのですか。そして再び、詩篇 30篇 7節 主よあなたはお恩寵のうちに私を私の山に堅く立たせてくださいました。あなたが御顔を隠されると私はおじ惑いました。

ほとんどのクリスチャンは、これと同じ気持ちを経験したことがあります。マルコの福音書で見えてきたように、私たちはキリストに従う者として神に召されています。それが私たちをこの世から聖別するものであることを知っています。それは時に、私たちを家族や友人たちとは違う存在にします。そして、クリスチャンであっても、キリストを信じない人々が時に直面するような落胆や苦しみを免れることはできません。そして、そのような時にイエスが共にいてくださることを知っているはずなのに、私たちは一人ぼっちだと感じてしまいがちです。しかし、イザヤ書ではその待つ時間を次のように言っています。

私はこの方に望みを置く。 待ち望む希望があるからこそ、待ち望む間に訪れる困難に耐えることができるのです。今日、あなたが主の再臨を待ち望み、この世での日々を主に仕えるとき、その同じ心構えが、落胆や、人生に打ち込む価値があるのかという疑念など、神がキリストに従う者として私たちを召された人生を本当に受け入れることから遠ざけているものを乗り越えさせてくれるでしょう。希望という言葉には、信頼という意味が込められています。いくつかの英語訳では信頼と訳されています。キリストに希望を抱くということは、自分の人生、人生の目的、将来、子供たちの将来、経済、すべてをキリストに託すということです！では、どうすればいいのでしょうか。18節から20節、特に20節で、彼はさらに直接的にそれを取り上げています。

見よ。私と、主が私に下さった子たちは、シオンの山に住む万軍の主からのイスラエルでのしるしとなり、また不思議となっている。19 人々があなたがたに「霊媒や、ささやき、うめく口寄せに尋ねよ」と言っても、民は自分の神に尋ねるべきではないのか。生きている者のために、死人に尋ねなければならないのか。20 ただ、みおしえと証しに尋ねなければならない。もし、このことばにしたがって語らないなら、その人に夜明けはない。

神に希望を見出すには、神が何らかの形で私たちと交信し、神の御臨在と御力を確信させるために、私たちが神から聞くべきこと、あるいは神から見るべきことを伝えてくださるという前提があります。神の御声を聞くにつれ、私たちは神の力と権威を確信するようになり、神への信頼が深まり、この人生での希望が生まれます。イザヤ書のこれまでの数章にわたって、神はイザヤや他の誰かに生まれた子どもを用いられて、実際にイスラエルの民にメッセージを送っておられます。つまり、イザヤは神が御自身を啓示され、民に語りかけられることを明らかにしているのです。それは、神に希望を見出すことができるようになるための最初の真理です。問題は、イスラエルの民が、神がどのように御自身を啓示されたかを見ようとせず、神とのコミュニケーションを求めて罪深い方法に走ったことです。彼らは、イザヤが「霊媒」や「黒魔術師」と表現しているような、死者と対話することで人生についての洞察を得ると信じている人たちに加担していたのです。彼らが答えを求めるべきは、死人ではなく神なのです。

このことについては、最後の節を読みながらもっと話したいと思っていますが、イザヤが死者に相談する代わりに民衆に指し示すところを見てください。20節のイザヤの言葉は、喊声、あるいは行動への呼びかけのようです。イザヤは言います、**"みおしえと証しに！"**。神に希望を見出したいですか？それなら、死人ではなく、神から実際に話を聞ける場所に行きなさい。神御自身の教えや証し、啓示はどこにあるのでしょうか？それは神の御言葉の中にあります。もしあなたが生活の中で御言葉をないがしろにするなら、イエス・キリストを通して神に近づくすべての人に与えられている希望と平安を、あなたの人生に見出すことはできないでしょう。私たちが毎日、神の御言葉に触れる時間を持つべき理由は、クリスチャンとして必要なデボーションの条件を満たすためではありません。聖霊が神の御言葉を用いて私たちの人生を内側から変えてくださるのを見ることによって、私たちは神への信頼、神への希望を築くことができるのです。聖霊が神の御言葉の教えと、神の御言葉にある神御自身の証しを私たちの人生に適用するとき、私たちの心、思考、感情、そして最終的には私たちの行動を変えるのです。神の御言葉が私たちの人生に働きかけることによって、私たちは絶望の淵から希望の淵へと導かれるのです。

ダビデ王に起こっていることを詩篇 25 篇 4-5 節で見ます。**詩篇 25 篇 4~5 節 主よ あなたの道を私に知らせ あなたの進む道を私に教えてください。5 あなたの真理に私を導き教えてください。あなたこそ私の救いの神 私はあなたを一日中待ち望みます。**

5 節の **"待ち望みます"**という言葉は、他の箇所では希望や信頼と訳されている言葉と同じです。つまり、ダビデが神の真理に、神がダビデに神の道を教えることに、希望を抱いているのがわか

ります。しかし、現代の私たちはどうでしょうか？私たちは、十分なお金を手に入れれば、やっと心配することがなくなり、問題を解決できると考えます。つまり、私たちの希望はお金にあります。もし私たちや私たちの子供たちが名門校で十分な教育さえ受ければ、最高の人生を歩むことができる、神の彼らのための御心を求めることもなく、考えます。だから、私たちの希望は実は教育にあるのです。私たちは感情的な問題に対する答えを世俗的なカウンセラーや心理学者に求めますが、彼らはお金や教育と同じように、ある程度の助けにはなっても、神の御言葉にしかない感情の経験に関する究極の真理を私たちに適用する真の助けには決してなりません。つまり、彼らは私たちが自分自身や自分の問題をよりよく理解する手助けはしてくれますが、長期的な感情の癒しのための最良の答えと解決策、言い換えれば希望を与えてくれる神をよりよく知る手助けはしてくれないのです！神の御言葉が私たちの希望の源であるというこの考え方が、私が以前推薦した本で、できるだけ多くの教会員に読んでもらいたい重要な本である理由です。スクリーン上に映し出されている、ポール・トリップ博士の著書『Instruments in the Redeemer's Hands』（邦題『互いに助け合うために』）は、キリストにある兄弟姉妹が神の御言葉を人生に適用することによって希望を見出すことができるように、あなたが神の御言葉を用いることに自信を持てるようになるのに役立つ最高の本です。互いが神をより信頼できるように助け合いながら、互いに神の言葉を語り合うことは、メンバー一人ひとりの責任です。そして、神を信頼する経験の中で、私たちはイエス・キリストによってもたらされる希望を見出すのです。

しかし、イエス・キリストを通して神に希望を見出さない人たちはどうなるのでしょうか。21 節と 22 節は、もし私たちが神の御言葉とそれが宣べ伝えるイエス・キリストの福音を拒む場合の、私たち皆への警告で終わっています。**21 その人は迫害され、飢えて国を歩き回り、飢えて怒りに身を委ねる。顔を上に向け、自分の王と神を呪う。22 彼が地を見ると、見よ、苦難と暗闇、苦悩の闇、暗黒、追放された者。**これは、神の啓示を拒絶し、特に霊媒や黒魔術師を通して死者に相談することによって神を拒絶する人々に起こることを描写しています。彼らの努力はすべて、この世で自分の道を見つける希望もなく、ただ暗闇の中を走り回るようなものです。これは特に日本に当てはまり、主要な文化的つながりの多くは、たとえそれが明示されていないとしても、神道という土台の上に支えられています。神道はその中核に祖先崇拜があるため、霊媒や黒魔術の考え方とある程度直結しています。表面的にはそう思えなくても、これが社会の多くの基盤を形成しているのです。しかし、それは日本だけでなく、この世界のどこにでもあることです。なぜなら、日本の文化と伝統の中核の多くは神道に遡ることができますが、西洋文明の多くは啓蒙思想に遡ることができるからです。啓蒙思想は結局のところ、神の御言葉という啓示された真理よりも、自分で真理を発見する人間の能力を優先させています。中東では、イスラム教と、偽りの宗教の上に築かれた世界観のためにイエス・キリストに啓示された真の神を拒絶することが核心であると言えます。聖書という啓示された神の言葉から離れて希望を見出す道は、暗闇へと続く道です。罪からの悔い改めとイエス・キリストへの信仰によってもたらされる神との関係から離れて、あなたがこの世で見つけたかもしれないと思う希望は、偽りの一時的な希望です。この世で希望を見出そうとするすべての試みは、やがて、そのような希望を見出すことはできないのです。この世で希望を見出そうとしても、私たちは創造主に対して罪を犯したので、絶望的な死の暗闇の中で終わります。

ローマ人への手紙 3 章 23 節 すべて人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、そして、ローマ人への手紙 6 章 23 節 罪の報酬は死です。

罪とは、聖書の定義によれば、思考、言葉、行いのどれをとっても、神に不名誉をもたらすようなこと、あるいは創造主である神を讃えることができないようなことをすることです。私たち全員がその罪を犯しています。そして神は、私たちの罪が私たちの死の原因であると言われる。しかし、ローマ人への手紙 6 章 23 節の後半は、私たちがイエスに見出す希望を示しています。

しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

地上の墓の先にも、永遠の命への希望があります。それは、この地上の人々に目的を与えるために、媒体を通して接触できる霊となる命ではありません。それは、永遠に神の栄光と恵みを完全に体験して生きる命です。そしてそれは、私たちが自分の罪を認識し悔い改め、イエス・キリストを私たちの主であり救い主として受け入れ、従ったときに初めてもたらされるものなのです。

そしてその命は、神がご自分に信頼する者に希望を約束されるこの地上から始まります。そして私たちは、神の御言葉を通して神を発見し、神への信仰を築きます。聖書、特にイザヤ書にある希望の約束が、神の最初の降臨について真実であったとすれば、同じ希望の約束は、神の再臨を待ち望む私たちにとっても真実なのです。このアドベント・シーズン、神の御言葉は、あなたにとって希望の源となり、結婚生活における希望の源、子供たちにとっての希望の源、仕事における希望の源、病気における希望の源となります。しかし、それはまた、これからの三週間で見ていくように、あなたの平安、喜び、愛の源にもなり得るのです。先に述べたように、神の御言葉は、この言葉を互いに語り合うことで、互いを高め合い、兄弟姉妹がこの言葉の中に強さを見出し、希望を見出すことができ、キリストの体における一致の源でもあるべきです。毎年そうしているように、私たちはアドベント・シーズンの最初に、キリストの降臨を覚え、見据えて、主のうちにある私たちの一致を祝います。今は飾りのないのクリスマスツリーに、一人ひとりがオーナメントを飾ります。この最後の歌を歌いながら、執事が皆さんを一つずつ招き、オーナメントをツリーに飾ります。入ってきたときにオーナメントをもらえなかった人も、オーナメントをここに用意していますので、遠慮なく参加してください。祈り、そして一緒に歌い、このツリーに飾られたオーナメントを通して、私たちが分かち合っている一致を目に見える形に示しましょう。

Isaiah 8:16-22 While we wait: Finding hope in the wait

Today is the first Sunday of Advent. It is the Sunday that we focus on the word and concept of Hope. Of course, this is hope that comes through Jesus Christ. Growing up in a Baptist church in the Southern United States, we did not celebrate Advent. We celebrated Christmas Eve and Christmas Day of course and sang Christmas carols in church leading up to Christmas, but never talked about or commemorated Advent. Advent was just something that Roman Catholics did or more liberal Protestant churches, but not Baptists. After becoming a Navy Chaplain and needing to do ministry in a context that included Christians from different denominational backgrounds, I learned about Advent traditions since many of the men and women I was a pastor for had those traditions that meant a lot to them. What I have learned over the years of growing in my understanding of Advent is that it is far more than just lighting a different candle each week. It is supposed to be a season of helping us focus on the coming and more importantly for us, the return of Jesus Christ. It is a season to remind ourselves that we live in a period of waiting. Those who lived from the time of Creation until the time Jesus was born were waiting on the coming of the Messiah, the Advent of the Savior. At Advent, we spiritually put ourselves back in that time, but we are not waiting on his first Advent, but on his second Advent, the return of Jesus Christ. Just like those in Jesus's day, most people are not looking and waiting for Jesus's coming, but those of us who claim to be his followers should be looking expectantly to see the return of our Savior. Advent is the time we specifically take time to focus on that wait and the expectation of his coming.

But do you know how when you wait on a person, maybe your spouse or your children, it just seems like wasting time? That is not the situation with waiting on Jesus to return. We are living our lives for him during this period, and he gives our lives purpose and direction that otherwise would come from our own sin-filled and limited human desires and understanding. So, for the next 4 weeks of Advent leading up to Christmas, we focus on what Jesus is doing for us and will provide for us as we live in this period of already getting to experience some taste of the life he has promised us, but not being able to fully experience it yet. **So, we wait, and today, I want us to see that we wait with hope.** Our passages over the next 4 weeks will all be from the book of Isaiah. Today, we will look at Isaiah 8:16-22. Let's begin by reading verses 16-17. **16 Bind up the testimony; seal the teaching among my disciples. 17 I will wait for the Lord, who is hiding his face from the house of Jacob, and I will hope in him.** Here in chapter 8 of Isaiah, the prophet Isaiah begins the chapter by telling about the birth of what seems to be his son, whose name, Maher-Shalal-Hash-Baz, is a prophecy of the Northern Israelite kingdom of Judah being overthrown by Assyria. So there is not a lot of good news in this. Then our particular passage starts in verse 12 with God's words to strengthen and warn Isaiah and those who believed his messages to not quit trusting in God and believe in the conspiracy theories and ungodly alliances that the rest of the people were trusting in. It is in that context that we read verse 16 where Isaiah is telling his disciples who accept his teaching to strengthen or "**bind up...and seal**" their resolve and trust in God's Word that Isaiah has delivered. Historians consider this a time where he may have withdrawn from public ministry to focus on teaching these disciples specifically and grounding them solidly in the Word of God. This will be important as we see the verses that follow.

He goes on to say that he is entering a time of waiting for the Lord, and in view of God's judgement coming to Israel and eventually to Judah as well, it seems that God has turned away and is "hiding his face" from his people. David, the king and psalm writer, felt this way often and put it into poetic words. In [Psalm 13:1](#) we read, "How long, O Lord? Will you forget me forever? How long will you hide your face from me?" [Psalm 88:14](#) says, O Lord, why do you cast my soul away? Why do you hide your face from me? And again in [Psalm 30:7](#), David says, By your favor, O Lord, you made my mountain stand strong; you hid your face; I was dismayed. Most Christians have experienced this same feeling. We are called by God to be followers of Christ as we have been looking at in Mark. We know that that sets us apart from the world. It makes us different sometimes from our families and friends. And even Christians are not immune to the same discouragement and even suffering that those without Christ face sometimes. And although we are supposed to know that Jesus is with us during those times, it is easy to feel that we are all alone. But then notice what Isaiah says about that wait... **I will hope in him.** Hope in the wait makes it possible to endure the difficulties that come during the wait. Today, as you wait for the Lord's return, and serve him with the days you have on earth, that same attitude will bring you through the discouragement, the doubts about whether life is worth what you are putting into it, and other things that keep us from really embracing the life that God has called us to as followers of Christ. That word "Hope" carries the understand of trust. In several English versions it is translated as trust. To Hope in Christ means to trust him with your life, your purpose in your life, your future, your children's future, your finances, everything!

So how do we do that? He has already been talking about how, and now he addresses it even more directly in verses 18-20, and verse 20 specifically. **18 Behold, I and the children whom the Lord has given me are signs and portents in Israel from the Lord of hosts, who dwells on Mount Zion. 19 And when they say to you, "Inquire of the mediums and the necromancers who chirp and mutter," should not a people inquire of their God? Should they inquire of the dead on behalf of the living? 20 To the teaching and to the testimony! If they will not speak according to this word, it is because they have no dawn.** There is an assumption in finding hope in God that God will communicate with us somehow in order to convey what we need to hear from him or see from him to assure us of his presence and power. As we hear from God, we become convinced of his power and authority and this grows our trust in him and therefore our hope in this life. Over the past several chapters of Isaiah, God has used the children born to Isaiah or to someone else to actually send messages to the people of Israel. So, Isaiah is making clear that God does reveal himself and speak to his people. That is the first truth to being able to find hope in him. The problem is that the people of Israel were not looking at how God had clearly revealed himself, and had turned to sinful ways seeking to communicate with God. They were participating in what Isaiah describes as "mediums" and "necromancers" who believed they were talking to the dead to get insight on life. These were questions they should be seeking answers from in God, not dead people.

I want to talk about this more as we read the final verses, but see where Isaiah points the people too instead of consulting the dead. His words in verse 20 are like a battle cry or a call to action. He says, **"TO THE TEACHING AND TO THE TESTIMONY!"** Do you want to find hope in God? Then go to the place where you actually hear from him and not dead people. Where do you find the teaching and testimony or revelation of God himself? You find it in the Word of God. If you neglect the Word in your life, then you are

not going to find that hope and peace in your life that is offered to all who come to God through Jesus Christ. The reason that we should be daily spending some time in God's Word is not to just check a box on fulfilling a Christian requirement for devotions. But in spending time in God's Word on a regular basis, we are building our trust in him, our hope in Him, as we see the Holy Spirit use God's Word to change our lives from the inside out. As the Holy Spirit applies the teaching of God's Word and testimony of God himself that we find in God's Word to our lives, it changes our hearts, our thoughts, our emotions and finally our actions. By doing that work in our lives, the Word of God can move us from a place of despair to a place of hope. This is what we see happening for King David in [Psalm 25:4-5 Make me to know your ways, O LORD; teach me your paths. 5 Lead me in your truth and teach me, for you are the God of my salvation; for you wait all the day long.](#) The word "wait" in verse 5 is the same word translated hope and trust in other places. So, we see David receiving hope in God's truth, in God's teaching of His ways to David. But what do we do today? We think that if we get enough money, we can finally not have to worry about things, and be able to solve our problems, so our hope is in money. We think that if we or our children get enough education at the right schools, it will set them up for the best life, with no thought of what God's will is for their lives. So, our hope is actually in education. We seek answers for emotional problems with secular counselors and psychologists who, just like money and education, can help to a certain extent, but can never truly help us apply the ultimate truth about our experience of those emotions which is only found in God's Word. So, while they try to help us understand ourselves and our problems better, they don't help us know God better who can provide the best answer and solution for long term emotional healing, in other words, HOPE! This idea of the Word of God being the source of our hope is why there is a book I have recommended before that I think is so important that as many church members read as possible. [Dr. Paul Tripp's book, Instruments in the Redeemer's Hands that you can see on the screen](#), is absolutely the best book to help you feel more confident in using the Word of God to help fellow brothers and sisters in Christ find that hope by applying God's Word to their lives. It is every member's responsibility to speak the word of God to each other as we help each other trust God more. And in that experience of trusting God we find the Hope that comes through Jesus Christ.

But what happens to those who do not find Hope in God through Jesus Christ? Verses 21 and 22 end on a note of warning to all of us if we reject the Word of God and the gospel of Jesus Christ that it proclaims. [21 They will pass through the land, greatly distressed and hungry. And when they are hungry, they will be enraged and will speak contemptuously against their king and their God, and turn their faces upward. 22 And they will look to the earth, but behold, distress and darkness, the gloom of anguish. And they will be thrust into thick darkness.](#) This describes what will happen to those who reject God's revelation and specifically reject him by consulting the dead through mediums and necromancers. All their efforts will be like just running around in the dark with no hope of finding their way in this world. This is particularly applicable to Japan where much of the major cultural connections are held up on a foundation of Shinto, even if it is not explicit. Shinto is at its core ancestor worship, so it is somewhat directly connected to this idea of mediums and necromancy. This is what really forms the basis for much of society even if it might not seem that way on the surface. But it is not just Japan, but everywhere in this world. Because while much of the core of Japanese culture and tradition can be traced to Shinto, much of western civilization can be traced to the Enlightenment which ultimately put human ability to discover for himself truth

above the revealed truth of God's Word. In the Middle East, the core can be described in terms of Islam and a rejection of the true God revealed in Jesus Christ for a worldview built on a false religion. Any path to finding hope apart from what is found in the revealed Word of God which is the Bible is a path that is leading down into darkness. Any hope you think you may have found in this life apart from a relationship with God that comes through repentance from sin and faith in Jesus Christ is a false and temporary hope. All our attempts at finding hope in this world will still end in the darkness of hopeless death, because we have sinned against our creator. [Romans 3:23](#) says, [23 for all have sinned and fall short of the glory of God](#) and [Romans 6:23](#) tells us [that the wages \[or payment\] of \[that\] sin is death](#)... By sin, we mean the Bible's definition which is to do anything in thought, word, or deed that would bring dishonor upon God or fail to glorify God as our Creator. We have all done that, and God says that our sin is the reason for our death. But the second half of Romans 6:23 shows us the hope we find in Jesus. [23 For the wages of sin is death, but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord](#). There is hope for eternal life even beyond our earthly grave. It's not a life where we become a spirit accessible through a medium to give purpose to those here on earth. It is a life lived fully experiencing the glory and grace of God in eternity. And it only comes when we recognize and repent of our sin and accept and follow Jesus Christ as our Lord and Savior.

And that life begins here on earth as God promises hope to those who trust in Him. And we discover God and build our faith in him through His Word. If the promises of Hope found in the Bible, especially Isaiah were true about his first Advent, then those same promises of Hope are true for us as we await his second Advent. The Word of God can be for you this Advent season a source of hope for you, a source of hope for your marriage, a source of hope for your children, a source of hope in your job, and the source of hope in your illness. But it can also be the source of your peace, your joy and your love which we will look at in the coming weeks. As I mentioned earlier, the Word of God should also be a source of unity in the Body of Christ as we speak that word to each other to build each other up and help each brother and sister find strength, find hope, in those words. As we do each year now, we like to start off our Advent season celebrating that unity we have in Christ, whose Advent we remember and look forward to. We do this by each of us adding an ornament to what is now a bare Christmas tree. As we sing this last song, the Deacons will invite each of you up row by row to add your ornament to the tree. If you did not get one as you entered, we have extras up here, so please feel free to join in. Let's pray and then sing together and visually display the unity we share through the ornaments on this tree.